

# 第49号

発行日：令和5年5月15日

発行元：介護老人保健施設 槇の里  
〒953-0041

新潟県新潟市西蒲区巻甲4363番地

(TEL) 0256-72-0331

(FAX) 0256-72-0330

<http://www.jojinkai.com/maki/>

# 槇



新年度を迎え、当施設にも若干の人事異動や退職者がありましたが、利用者様やそのご家族方には極力ご迷惑はおかけしないよう努めていきたいと考えております。また最近の社会情勢を考慮し、面会制限も緩和を図っておりますが、高齢者施設という特殊環境のため完全な制限解除はまだ難しいと思っております。ご理解の程よろしくお願いいたします。

ところで、高齢者の特性を示す横文字表示に「ロコモ(ロコモティブシンドローム)」や「フレイル」などを目にするようになりました。前者は移動能力の低下を、後者は体力低下による虚弱を示すものです。ちなみに「フレイル」の対義語は「ロバスト(頑強)」です。最近、かつてはほとんど見なかったロバストな老人を時々見かけるようになりましたが、私もあやかりたいものだと思っております。

一方、最近の言葉の使用状況にはやや違和感を覚えることがあります。例えば、「全然」という言葉ですが、私が子どもの頃に習った時は、「否定表現に対する強調語」と教えられました。つまり「全然ない」「全然だめ」は可だが、「全然多い」「全然すごい」は不可と理解していました。しかし、現在はずべての表現が「全然良い」(昔は不可) ようです。言葉は時代とともに変化するものです。病名においても変化がみられます。かつての「痴呆症」「精神分裂病」は、それぞれ「認知症」「統合失調症」となりました。また、差別的色合いの強い言葉として「盲」「聾」「啞」等は死語となり、それぞれ「視覚障害」「聴覚障害」「言語障害」です。さらに驚いたことに、私が小さい頃に読んだ「ちびくろサンボ」という絵本も差別的表現との誹りを受けました。「身長の低い肌の色が褐色のサンボ君」と表せば良いのかもしれませんが。

最近「老人」という言葉にもあまり良い印象はもたれず、「高齢者」が一般的のようです。そうすると当施設も「老健(介護老人保健施設)」ではなく「高健」と呼ぶことになりかねません(笑) このような「言の葉」のもつフレイル(脆弱性)を感じているのは私だけなのでしょうか。ぜひ皆様の率直な御意見をお聞かせいただければ幸いです。

ロバストな老人、フレイルな言葉

介護老人保健施設 槇の里

施設長 齋藤 弘行

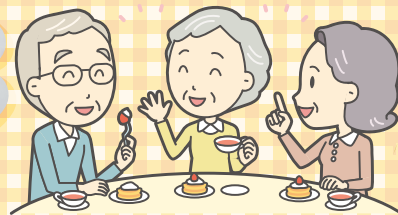
# クッキングレクリエーション

1F はどら焼きを作りました。

1F

クリームとフルーツを盛りつけていただき、「食べるのがもったいないね～」と皆さま笑顔で食べられていました！

果物とどら焼きの相性もばっちりでしたよ♪



2F はクレープを作りました。

2F

クレープを包めないほどフルーツをのせる方や控えめにフルーツをのせる方など、思い思いのクレープ作りを楽しんでいらっしゃいました🍓



# お花見 ドライブ



4月上旬、農業大学校沿いへドライブに出かけました。

今年は例年より桜の開花時期が早く、残念ながら葉桜となってしまいました…  
ですが、「春といえば桜よね」「いいお天気だわ～」と少しでもお花見の雰囲気を感じていただけてほっと一安心でした。

# 書道



全国書画展覧会が企画する「ふれあい書道展」に槇の里からも作品を出展し、それぞれの作品が受賞されました。おめでとうございます！

# リハビリコラム

表紙の挨拶文の中にも登場した「言語障害」についてご紹介したいと思います。皆さんは「失語症」「構音障害」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？一括りにされがちなのそれぞれの違いについて今回はお話ししたいと思います。



## 失語症

「脳卒中等により、脳の言語中枢が損傷されることで獲得した言語機能（聞く、話す、読む、書く）が障害された状態」です。これは、口腔器官の麻痺などによる運動の障害、器質性の障害や構音障害とは異なります。また、声の出なくなる失声症などとも異なります。

(例) 話そうとするが言い間違える、言葉が頭に浮かばない

## 構音障害

「呼吸・発声・共鳴・構音のどこかに問題が生じることによって、発音が正しく出来ない状態」をいいます。脳卒中の後遺症で構音器官の麻痺などにより、呂律が回らなくなる状態がまさにこの構音障害です。

(例) 言葉はスラスラと出てくるが、呂律が回らず聞き取りにくい

両者はどちらも「話す」ことへの障害という共通点がありますが、まったくの別物です。また、コミュニケーションは、人が生きていくうえで極めて重要です。そのコミュニケーションに支障をきたす「失語症」と「構音障害」は目で見ただけでは分からない本人だけの苦しさ、大きなストレスがあります。そんな利用者様に寄り添えるように当施設の職員は日々勉強してまいります。